咽頭結膜熱に注意！

咽頭結膜熱とは、乳幼児を中心に流行する感染症です

症状

- 主に38℃以上の**高熱**、**咽頭炎**（のどの痛み）、**結膜炎**（目の充血やめやに）がみられます
- 高熱は比較的長く（5日前後）続き、扁桃腺の腫れや下痢、腹痛がみられることもあります
- 多くの場合、症状は1～2週間で軽快します
- まれに重症化して肺炎を起こす場合があります

治療・留意点

- 特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます
- 結膜炎の症状がひどい場合は、眼科での治療が必要になります
- のどの痛みで食欲が落ちて**脱水**になることがあるため、食事は**やわらかく薄味**で、**のどごしのよいもの**に工夫し、**水分補給**を心がけましょう

感染経路

- **飛沫感染：**
  咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによって感染します
- **接触感染：**
  ウイルスが付着したタオルや手などを介して、口や目、鼻などの粘膜から入って感染します

かつては、プール利用の時期に流行していたことから「**プール熱**」と呼ばれ、集団感染もありましたが、現在はタオルの共用が減ったなどの理由から集団感染の報告は見られなくなっています

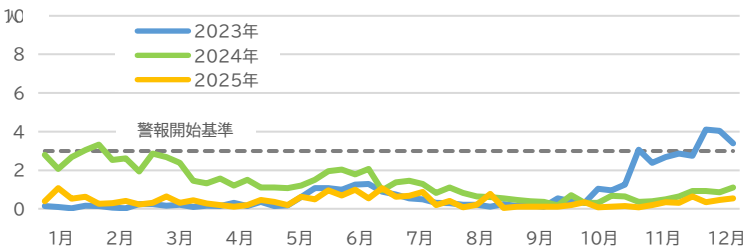
感染対策

- 咳などの症状がある場合場合には、口と鼻を覆うなどの**咳エチケット**を心がけましょう

- 原因ウイルスはアルコールールが効かないため、**流水と石けんでの手洗い**が有効です

- **タオルの共用は避け**ましょう

流行傾向



山形県内1医療機関当たりの患者数（2023年～2025年）

- 数年おきに流行がみられ、山形県では主に夏と冬に流行します
- 患者の年齢は、5歳以下がほとんどで1歳が最も多くみられます

最新情報は、感染症情報センターWebサイトの「週報」をご覧ください

作成：2026年7月　山形県衛生研究所　感染症情報センター